

## ◆第 11 回佐賀県GM2 1 ミーティング（概要）

### 次第

- 1 挨拶
  - ・佐賀県知事 山口 祥義
- 2 フリートーキング

### 概要

#### 1 挨拶

（山口知事）

会議に入ります前に、いくつか報告というかですね、説明からしたいと思います。

まず、H64D が目達原駐屯地の方からですね、民家の方に墜落した事件についてお話をさせていただきたいと思います。ちょうど、私が覚知したのは 16 時 53 分、だいたい 10 分後だったです。

ちょうど県庁に戻ってくる車の中でしたので、すぐに県庁内に情報連絡室（の設置）を指示して、私が部屋に入ったときには、県警さんのヘリの映像が部屋の中に流れておりました。その時点におきましては、自衛隊ヘリが連絡つかないという情報とその民家の火災とが別々に出されていて、それが同一かどうかというところが大きな焦点ではあったわけですが、県警さんのヘリの映像がまた鮮明で、後部の部分が突き刺さったような形で視認ができたので、むしろこれはそうであろうということですね、関係部署と連携をしながら、まず人命救助と延焼拡大（防止）措置ですとか、そういった措置について連携体制をとって、まず鎮圧ということに全力をあげました。

その過程で、渡辺陸佐と高山陸曹長、本当にご冥福をお祈りしたいとも思いますけれども、突然直下で、もう真っすぐに（墜落）ということでありましたので、ちょうど隣の部屋に小学校 5 年生のお嬢さんがおられて、逆に真っすぐだったからなのかもしれないんですけど、本当にギリギリのところから脱出することができました。色々ありましたけれども、8 時頃になりますと、（火災が）おおむね鎮圧の方向との連絡がありましたので、小野寺防衛大臣の方へ電話しまして、徹底的な原因究明と再発防止策と、そして地域、住民、そういうところにしっかり支援をしていただくというこの 3 点話

をさせていただいたことと、どんな思いで小学校5年生があったのかという話も電話でさせていただいて、大臣は非常に全力でやるからという風な答えをいただいたところであります。

その翌日に、神埼市長と共に現地を訪れまして、御両親とお話をさせていただいて、神崎市と連携しながら、地域住民を含めて、ケアをしていく、全力で我々もやっていくということですね、心合わせて対応しているところであります。

改めて、先だって小野寺大臣も現地も含めて県庁の方にも来ていただいたので、もちろん、非常にこの安全保障関係の厳しい中で頑張っておられることは分かるものの、決して住民、それから、そうした民間を巻き込んではいけないことをしっかり肝に銘ずるべきではないかという話もさせていただいて、(大臣からは)そこはきっちり対応するというので、心を合わせてやっていくということでありました。

これから原因究明の結果ということが、いずれまた連絡いただけるということになっております。

この目達原駐屯地は昭和29年から、あそこで航空基地として展開されておりました、共存してきたわけです。いろんな意味でお互いの立場を理解しながらやってきたわけですが、そういったことで今回初めてこういうことが起きたということをお我々は重く受け止めて、しっかりとこれに対して防衛省の方にも対応していただくということを求めていきたいという風に思っています。これが一点です。

これについても、また御意見がありましたらお伺いしたいと思います。

それから、原発の再稼働の問題につきましては、今、3号機が3月、4号機が5月というような目途で、今使用前検査が行われております。先だっては、これは玄海町長と二人だったですかね、首長は。更田(ふけた)委員長、規制委員会の委員長が初めて現場の方で地元の意見を聞きたいということで、唐津の方まで。唐津市長も居りまして、三人でしたね。本当に自由に意見を言える環境で、まず来ていただいたことにとっても感謝しなければならないと思います。規制委員会は本当に、福島を繰り返してはいけないという、規制をきっちりやっていくという、規制基準を作って、規制基準に合っているかどうかの厳重なチェックをするという、そういう役目でありまして、他の色んな人たちが色んな意見を言うことで、むしろ、例えば道路作ってくれとか、防災訓練の話とか、様々所掌じゃない話もありましたけれども、更田委員長

は立派な方で、真摯に受け止めた上で、回答しておられました。

我々とする、ああいう取組というのは評価をしていかなければいけないと思います。今、まだ極めて重要な時期で、(福島事故のことは)我々絶対風化させてはいけないので、今、これからも含めてですけど、規制委員会には改めて厳重なチェックをしていただくということと、九州電力さんにはしっかりと気を引き締めてやっていただくということについて改めてお願いしたところであります。この件に関しましても、このGMでも一度皆さん方の意見を承りながら進めてきたこともありましたので、御報告させていただきました。他にも、県政も色々挙がっておりますけれども、それはまた追々、皆さんとの話の中で御報告させていただきたいと思います。

本日はそういったところで、またこのGM21もスタートからいろんな変遷を経て、今迎えているわけであります。今日は自由に、これ政治家同士の会議ということで、今日は全員集まっておりますので、自由に意見を出していただいて、議論させていただきたいという風に思います。本日もよろしく願いいたします。

## 2 フリートーキング

### (1) 佐賀市提案テーマ

秀島佐賀市長から趣旨説明。

#### a 幼児教育無償化と待機児童の現状について

(秀島佐賀市長)

今、それぞれのところで新年度の予算査定が済んだところもあると思いますが、今、最中というところもあると思います。そういう中で気づいたことですね、それと佐賀市の苦悩している現状とを皆さんに披歴したいと思います。

2つございまして、いわゆる保育所・保育園の待機児童の問題、それと、同じように待機児童の問題ということで、小学校に入っの学童保育、その部分での待機児童、両方の待機児童で佐賀市は悩んでいるところでございます。

まずは保育所・保育園でご説明したいと思います。

平成21年の4月の時点で、保育所・保育園の定員が3740人。平成29年6月の時点になると、6356人ということで、1.7倍近くに定員を増やしているが、待機児童の数が毎年増えてきている。色々手を尽くして保育所・保育園の充実を図

ってきたが、中々待機者が0にならない。

こういう状況の中で、国が考えられていることが、まだ決定ではないが、幼児教育の無償化で、積極的に取り組んでおられている。その中であって、これが問題になるのですが、認可外保育施設の無償化が結論が出ていない。

認可外保育施設の無償化となるとよいが、これが実現できなければ、より認可された保育所・保育園の方にどっと（人が）流れてくるということで問題が大きくなるわけだが、国はこのような方針を出している。

これにたいして佐賀市が困っているのが、幼児教育の無償化は一般にはいいことと捉えられがちですが、整備していく行政にとっては非常に問題。保育所・保育園等で措置できる数値だが、需要がだんだん上がってくる。無償化になると自宅でするよりも無料で外でお願いした方がましだ<sup>ほう</sup>という方の分も加わって、自宅で世話するの数も減る。行政が面倒を見なければならぬ子供の数が増えるだろう。今でも大変なのに、これから無償化に伴って需要が伸びると、施設やスタッフの養成等が追い付けないのを心配している。幼稚園でもよいが、預かり時間の長い保育所の需要が伸びるのはお分かりだろうと思うし、待機児童数が解消しなくて、逆に増えるのではと心配している。

待機児童のいる現状での無償化は、待機児童解消にあたっては、条件的に悪くなる。相対的な考え方だが、無償化もよいが、まずは待機児童対策を優先してやるべきではないかというのが我々の立場。現状も、所得の格差で保育料等はそれなりに設定をされているので、無償化で得をするのは所得の高い層の人たちで、所得の低い人たちがこれで大きく救われることはあまり考えられない。子育てに対する公平・公正さの分からは理解はできるが、高所得者への恩恵が高いものになっている。

市・町で経費の負担もしているのに、そういったものが増えると給付費の負担増で財政で窮屈になる。

お題目はよいが、そのまま実行されると、地方では悩み・苦しむ部分があり、発言のチャンスがあればお願いしたいということで提起をした。

## b 放課後児童クラブの現状と課題について

(秀島佐賀市長)

同じ待機児童の部分で、今度は放課後児童クラブの現状と課題。先ほど申しましたように、保育所・幼稚園等の待機児童がいれば、当然、そちらを利用される方は小学校に入って、子供さん達の面倒を見る人が家庭にいないということになりますと、放課後児童クラブに頼られる家庭が増えてきます。

平成 27 年に基準が改正されております。以前は3年生までということだったのですが、できれば6年生までというように広がっている。それと劣悪な児童クラブは慎むべきということで、一定の基準が設けられている。概ね 1.65 m<sup>2</sup>以上という面積基準や、規模も 40 人以下が望ましいということであります。

以前は 70 人とかで、そういう部分が 6～7 年前までであったように記憶しています。

これが低いところで押さえられて、これであれば、それなりに子供達の発達状況に応じた部屋、支援員の体制がとれるわけですが、それが簡単にいくのかということ。

従事者は、以前はボランティアを含めて厳しく言われていなかったが、今回の基準では 2 名以上で、内 1 名は支援員の資格を備えた人がいるべきということになった。

これには経過措置があり、平成 32 年 3 月 31 日までとなっている。これだけを見るとごもつともだが、ここに問題点がある。

佐賀市の実態は放課後児童クラブを利用している数が、平成 25 年度は 1,850 程。これが平成 27 年から増えて、2,000 人を超えるようになっている。

市としてもクラブの建物をつくって、要員確保を行ってきたが、待機者が出ていて、その数が平成 29 年では 175 となっている。この方達は役所に対してかなりの不満を持っておられる。

周辺で農村環境を持っているところは少ないが、都市化されてくるとこの部分が激しい競争になっていて、「なぜ、うちの子供を入れないんだ」というお叱りがどんどん担当部署に入ってくるようになっている。

佐賀市の運営状況をここにお示ししたが、いずれも一定の謝礼をしているが、専門的にはまっている嘱託さんでも月に 148,000 円程度。国の基準はもっと高く

てもよいと出ているが、他の仕事との関係でこの辺で納めているが、そんなに佐賀市が安いわけではないと思う。

土日・祝祭日等を除けばそうでもないが、長期休暇時の要請もあり、このくらいの条件では割に合わない、特に人手不足で、こちらに振り向いてもらえないというジレンマが現場にはある。

佐賀市は 69 クラスあるので、嘱託がそのくらいの数字にならないといけないが、そこまでに達していないという状況で運営をしている。

それを日々雇用や有償ボランティアでカバーして運営しているが、今でも足りないのに、この嘱託員が労基法との関係で5年に限ることにしており、この分の補充もしていかないとならない状況にある。

課題をまとめると、3年生以下でも待機児童が増加していて、とても6年生までを考える予定がない。従事者が不足していて、基準に沿った人員配置がなかなかできない。これは佐賀だけでなく全国的な課題と捉えているが、こういった中で、県が設ける研修を受けないと支援員としての資格がないとする制度がまもなく始まる。結構レポート提出もあり、高齢者にとっては重荷になる内容と聞いており、人手不足の時にそういったものを条件とすると、こうした仕事をしてくれる人が減るのではないかと心配をしている。

全国知事会・市長会でも問題にしている、基準ではなく、参酌というか、参考、ガイドライン的な基準にしてもらえればというお願いも出ている。

国も実情を見て議論をすと言っており、推移を注意深く見なければならないが、国が考えているような理想的な姿が、地方の実態ではついていけない、佐賀市にあってはそういう希望者が多いので、不安材料を持っている。

今日お集まりのところには心配ないという市町もあると思いますが、こういう悩みがあるということを披歴させていただいて、議論等があればということで提案をした。

## ○主な意見等

- ・ a に係るもの
  - ・ 佐賀市で働く住民は佐賀市内の保育所等に預けたいと思っていて、佐賀市の

待機児童の問題は周辺市町にも影響がある。

幼児教育の無償化の負担が市町に振り替えられないよう、国の動きを注視している

- ・ 施設整備の広域のニーズと、設備整備の負担を考えていく必要がある。  
保育士の処遇改善に関し、賃金面以外で、勤務条件を緩くすれば働ける人もいる。
- ・ 保育士が福岡へ流出しているので、県全体で処遇改善等の人材確保にしっかり取り組んでいく必要がある。
- ・ 0～2歳児を預かる場合、多くの保育士が必要となるが、そうしたニーズが増えている。
- ・ 0～2歳児を預かる場合の基準について、県で特例をつくれぬのか。
- ・ 地域おこし協力隊の保育士版や、今のうちから地元で保育士になるような教育を小中学生にしていかなないと間に合わない。
- ・ 他市町の住民は（自市町内の保育園に）受け入れていない。  
保育士は福岡県に流出するだけでなく、せつかく保育学科を出ても、民間企業の給与がよいと保育士にならないケースも多い。
- ・ bに係るもの
  - ・ 放課後児童クラブでは、指導する専門家が要るような子を専門家がない状況で受入れるなど無法状態。
  - ・ いわゆる障害を感じられる子供達は（受け入れをしている）別の施設があるが、資格者が（複数の施設の）掛け持ちだったり別の問題が絡む。  
一人あたり年間160万円ぐらいかけ、手厚く行政的・財政的に負担している。
  - ・ 支援員は民間企業に人材派遣を委託することにした。コストが増加するが、社会保険の適用など、待遇改善を図る狙いもある。

（山口知事）

国策も含め、現場の状況を踏まえてしっかりやっていただくようにと全国知事会からも申し入れているが、しっかり申し入れをしていきたい。

高卒の県内就職率は3.5%上がり、成功した。かなり色々なことをした。

教育委員会が今まで県外就職を進めていて、東京、大阪に就職させていたのを、これからは県内という雰囲気に変えたり、ものづくり基金をつかって、佐賀のものづくりの企業を紹介したり、企業の皆さんに高校に行っていただいたり、県内に就職したら一時金で30万円渡したりとか。もともとが低いこともあって成果が上がっているが、それでも県内の企業の方が取りに行くのが遅くて、生徒はだいぶ雰囲気ができてきているが、県内企業が積極的に取りに行ったり、採用計画を立てたりしないので、後手になっているので、企業にアドバイザーを派遣して県内就職を促進する仕掛けをしていきたいと思っている。

まったく同じように、保育士や介護士、看護師にもこういう話があって、やっぱり福岡に行ってしまうという話をさんざん承った。企業にも同じことが言えて、福岡の方が間違いなく初任給が高い。ところが、全体としての生活水準は佐賀は悪くない。就職情報誌とかを見るとまず初任給が書いてあるから、福岡が上ということになって、福岡に行こうという雰囲気になっていく。

我々も首長同士が声かけをして、色んなところで処遇改善も含めて、何ができるのか、そして、士気を高めたりと。嬉野高校とか素晴らしい、介護とか。ああいう人達にも声をかけると「県内で頑張ろう」という雰囲気になっていくので、この世界でも雰囲気づくりしていくのが大事と思う。

佐賀県のこれからは占ううえで大事なところでもあるし、放課後児童クラブも今は大勢の人が参加するようになって、なんとなくそこに入れておけばという雰囲気で、確かに危ない状況が出てきているのかもしれないので、実態を踏まえたルールを作らないといけないなと思う。

無償化の話も国でも議論されているが、まったく佐賀市長の問題提起でいいと思うし、我々も現場の声を国に届けていきたい。

## (2) 佐賀県提案テーマ

山口知事から趣旨説明。

### a 外から見る佐賀、内から見た佐賀

(山口知事)



この3年間、佐賀の誇りにこだわってやってきた。地域の誇り、「佐賀さいこう」というプロジェクトだが、世界を魅了しているということで、日本酒もお茶も有田焼も佐賀牛もミカンもということで、世界に発信して成果を上げている。

交流という面で、九州佐賀国際空港は今年は70数万人になる勢いだし、宿泊旅行者数の伸び率も全国1位で、外国人宿泊者数増加率も全国2位で九州1位を4年続けている。外国人住民人口の増加率も全国1位で、入りと出が盛んになってきているのが佐賀県の特徴。

皆さんに色んな取材をするなかで、外国人観光客から本物という感じ、東京・京都とは違う日本を味わえとか、外国人の評判、評価が高いのが佐賀の特徴。

おそらく、自分たちとは違う暮らしが佐賀にあると感じていただいている。

佐賀が好きというのが前年比10ポイント増加していて、これは皆で力を入れて「佐賀さいこう」「佐賀は素晴らしい」という運動を繰り広げた結果でもあるので、これからもやっていきたい。

私が佐賀県民の皆さんに聞くと、「(福岡市の)天神がよい」「ディズニーランド行きたい」「リニアモーターカーを誘致しないと」とか言う話が出てくる。

それ自体を否定するものではないが、佐賀県民は天神が大好きという傾向が見られ、県内でもミニ天神とかミニ銀座のような場所に多く佐賀県民が集まっている。

都市的価値と地域的価値を量りにかけたとき、これは両立すべき価値だが、佐賀県民は都市的価値の方にグッと偏っていて、下手をすると都市の方が上だと思っている人がいて、こういったところはどうなのかというのが私の強烈な問題意識。

外から佐賀県を見た評価、「素晴らしい財産をもった県」という評価と、佐賀県民が(行きたいと思うのは)「天神やろ」というギャップにすごく悩んでいる。

例えば、白川郷の素晴らしさ、足助の素晴らしい町並み、彦根では素晴らしい町並みが彦根城周辺に残されている。

我々が気づいたのが、太良の海中鳥居。地元の人からするとなんということはないのかもしれないが、むしろこういうものがない。

外から見た目の素晴らしさというところ。例えば、祐徳稲荷神社で、私は鳥居

が連続してつながる山の上に魅力を感じるが、佐賀のうちから見ると、舞台だけに目がいってしまう。

客観的に、世界の皆が佐賀素晴らしいねという視点と、佐賀県民が見ている佐賀というギャップを埋めていかないと。

これから海外のお客さんがどんどん来たときに、「佐賀素晴らしいですね」といったときに「天神を見てください」と言って、天神を勧めたりして。

天神こそ、どこの国にもある地域なので、それを自分たちがわかっていないと、いくら伸びている、よい施策をやっても変わらないのではというのが問題意識。

もし、町民、こども達と話すときがあったら、ぜひ議論をしていただくと、私が言ったようなことを言う人も多いです。

壮大な茶畑、カラフルな海苔畑など、素晴らしいと私は思う。トンバイ堀もそう。河原にかけらが落ちているのも素晴らしいし、こういう町並みを残していきたい、巨大ホテルに変えてはいけないというのが私の思い。

嬉野茶時では、嬉野の若い連中がわかっていて、グッと際立たせて伸ばしていきたいとしている取組で、応援していきたい。

古湯の古民家を回収した泊まれる図書館は佐賀らしさが出ているし、川古もよいし、どちらかというところまで背中を向けてきたクリークというものこそ、佐賀県の魅力で、これを光らせるクリークマルシェはこれからオランダと連携しながらやっていく。

行ってみたときに獲れたもので料理する松島レストランは自然な感じで、きれいに定番の豪華料理を出すより、非常によい。

佐賀の街で言えば、饅頭屋や餃子屋やカレー屋だったり、この「かわの」なんて福岡からタクシーで来る人がいる。こういうなんてことない佐賀の風景にシンパシーを感じている人がいるのに、今まで佐賀県はこうしたものを壊して、なんとなく小洒落たミニ天神みたいな町を作っていたということに佐賀のこれまでの課題があるのではないかということ提起したい。

市町村の頑張りもあって、佐賀市は暮らしやすさ1位とか、いい方向に行っている話だと思う。

## b 伝承芸能祭

(山口知事)

新年度予算にも合わせて、伝承芸能祭について報告をしておきたい。

これは安芸高田で、こうした舞台があって、宿泊施設の横に民俗村のようになっている、神楽をずっとやっている。温泉・旅館・飲食店・神楽舞台がセットになった複合施設が湯治村とあって、予約がなかなか取れない。毎晩のように神楽が行われている。

そこの神楽村だが、町内の神楽、市内の神楽団が22あるが、年間150回以上、順番順番に神楽の公演を舞台でやる。高校生もいます。参観料は1回500円。僕が驚いたのが、彼らは神楽なのに、視察は(兵庫県の)宝塚に行く。お客をどう喜ばせばいいかを考えながらやっている。佐賀県で頑張っている皆も、大人にやらされるのではなく、色んな舞台があって、例えば全国大会があって、楽しくやれたらいいのになとずっと思っていた。

広島神楽グランプリとして、全国から神楽をやっている皆が集まってきたりして、意見交換しながら後世に残していこうという取組をやっている。

ということで、佐賀県も色んなところで浮流が行われているが、発表の場がないという話も聞かされてきたので、今回、10月8日に文化会館で伝統芸能を見せるということで、県内20団体、先ほどの安芸高田なんかを入れたらと思うが、県外2団体も入れながら、こういった伝承芸能を残す舞台を作っていきたいと思っている。

佐賀らしいもの、むしろ伝統的な価値を皆で称えて保存していくことが大事だと思います。伝統芸能の担当課長も作って支援をしている。国指定・県指定を含めて色々あるので、皆さんで手を差し伸べて、21人でしっかりと応援をして、佐賀を盛り上げるメンバーにしていきたいなと思いますので、よろしくお願ひします。

皆、後継者不足・人手不足、運営資金不足、設備老朽化といった悩みを抱えているので、ここで手を入れないと、一旦消えたものを復活するのは難しいので、150年を機に、佐賀らしさを追求していく時期ではないか。

地域力を高めるということで、目指す姿は、気運を醸成して、人材を育成して、

できれば自立できる、安芸高田ではないが、自らの力で様々な動きができるところまで盛り上げていければいいなど。そのためには、当面、県もしっかり支えるべきところを支えながら盛り上げていきたいなど。平成 30 年から、年々 5 年間充実させながらやっていきたいので、首長さんの皆さんも一緒に応援団になっていただいて、盛り立ててやってもらえると、県全域で盛り上がっていく流れになると、俺もこの伝統芸能やりたいという子供達が増えていくのではないかと思っている。

担い手と次の担い手層と予備層をとすそ野を拡大して、継承意識を高めていきたい。

要は、佐賀らしさをしっかりとやっていくことが、このインバウンドの時代にも大事だという問題意識と、できれば県民の皆様にも佐賀らしさを知って、発信してもらえたらいいなという希望も兼ねてのお話です。ご意見がありましたら。

## ○主な意見等

### ・ a に係るもの

- ・ <sup>ふるさと</sup>故郷教育をしていないので、都会に出た若者が帰ろうと思わないし、受け皿もないので、帰ってきても大丈夫という呼びかけもできない。

せっかく（地元）よい企業があっても親がトヨタや日産を勧めてしまうと子供が就職しないので、親子向けに市内の有名企業へのツアーを行ったところ、子供の就職にそれなりに効果があった。

また、指導する教師向けの説明会を行ったところ、こちらも多くの参加があった。

- ・ 東京や福岡のTV局に露出する努力を続けて、外からそうした情報が入ってくれば、市町の人には勇気づけられるので、そうした戦略を考えてほしい。
- ・ （自分の住んでいる地域の良さを気づかないのは）価値観の違いなので、とにかく外からのマスコミなどで評価をさせて、自分達の良さを気づかせる取組を続けられれば（住民の）価値観は変わると思う。
- ・ 関東から女子大学生に来てもらって意見を聴いたが、都会の若い人の見ただけで田舎は良く見える。一方で、県内の若い人は「田舎は何もない」というのが

第一印象。

いいところを宣伝すると、もっと都会の人も佐賀県に入ってくると思う

・ bに係るもの

- ・ 伝承芸能は（担い手の）世襲制や他地域の人を入れないことをよしとする閉鎖的な部分もあり、単純に広げようとするとうるしいケースもある。

（地域の人に）寄添うことが大事なので、（県の担当課の）文化課の役割が重要。

- ・ （伝承芸能の）公演で収益があがれば、役者としての収益になるのでよい。いい提案。
- ・ 例えば、県全域の伝承芸能を、佐賀城本丸歴史館の中とか、一か所で日々公演できる企画、場所を34年度からやっっていく集大成として考えていけばいい。
- ・ 伝統芸能は補助金をいただいてなんとかやっているといった状況だったが、地域のお米をお金に換える取組をしたところ、内部で保存のための計画を作ったりと勢いづいてきたことがある。この伝承芸能祭をきっかけに、なんらか自立する仕組みづくりを、仕掛けを構築するアドバイスをいただければいいと思う。
- ・ 県外のあるところでは、1日3万円払って曳子を集めないと祭が継承できないところがある。祭の台は300年続いた台とか歴史は深いのだが、そういった現実を考えたとき、浮立とか、昔やっていたからやりたいという意見はあるが、知事はこれをどういった方向で残したいのか。

→ （山口知事）

皆の問題意識の中でこれをどう育てていくのかは、担い手の皆さん次第。私が無理にもっていこうというのはない。

ただ、県内をまわったなかでは、もっと活躍する場をほしい、もっと楽しくやりたいという声があったので、今回担当参事を作って、今回やってみて、他の県の楽しくやっている人と交流させてなんかが生まれるかどうかをやってみたい。

### 3 その他

#### (1) 意見

- ・ 今は保育園に預けたい人の保育の手当を支援しようという話を取り上げられているが、他方で親子の絆も考えるべき。

今の保育を進めて、延長保育だとかをどんどんやると、子供と親の絆を薄めるのではないか。母親より先生が好きな子がいる。

保育料を考えると、保護者と市町が相当の経費を支出しているが、祖父母が見れば0円。祖父母が面倒を見ている世帯にその半分出しても半分が残るし、そのあたりを色々な角度から考えることができないかと思っている。

預ける人の確保も必要だが、親子・地域の絆づくりを考えていく必要があると思っている。

→ (山口知事)

県の施策の話をする、佐賀県は全国で3番目に世帯当たりの人数が多いが、それをさらに進めるよう、3世代同居住宅だとか、近隣住宅を建てる際に、スマイル事業として補助金を出している。

そういう感じで仲良くしていただく方向が望ましいと思っている。

- ・ 神埼の(陸上自衛隊ヘリコプター墜落)事故の時、警察とか自衛隊とかから情報が入らず、不安に思った。最善の新しい情報をいただきたい。そうしないと折り返しの対応がとりにくい。

県はどこがグリップしているのか。

→ (山口知事)

県は、私と消防、自衛隊、警察で定期的集まって、意思疎通ができるような形で連絡先を取り合っている。

確かに、県が集約した情報なりを首長さん、あるいは市町にフィードバックする仕組みを今回は意識していなかった。

現場の指揮をされる首長も(情報が入ってこないことは)問題だと思いますので、フォーマットを作りましょう。

- ・ (県内のスポーツ人材の育成について) 事業所だけでなく、自治体でも秀でた

人を特別枠等で採用をしていかないと。地元で優秀な選手が定着できない。

→ (山口知事)

佐賀県の(開催する)国体は今の流れだと、国民スポーツ大会という名前になった第1回になる。これまでの体育ではない、新しいスポーツの姿を佐賀県から示せるような仕掛けを作っていきたい。

する人もそうだし、見る人、支える人。生涯健康的になるように普段から取り組むようなことも含めて提示していきたいので、これもまた議論してみたい。

## (2) 要望

- ・ 保育士の確保の話があったが、保育士の資格取得の支援事業について、佐賀県は県の支援がないと聞いた。資格を取りやすいように、県も支援してほしい。

→ (山口知事)

県の中で対策会議をやってみたい。

- ・ 伊万里高校が春の甲子園に21世紀枠で出場することになった。県民の皆さんの応援をお願いします。
- ・ スポーツ関係に力をいれていくなかで、少年スポーツ関係で全国大会に行くような場合の支援体制を合わせて考えていただければ。  
全国大会に行くとなると、東北に行ったりとする。一人当たりいくらしか支援していないので、親達は資金作りに躍起にならないといけない。  
小さな町では、財政的支援をどこかにだけやるわけにいかないという縛りの中でやっているの、そうしたところにも目を向けていただきたい。

以上